

ぎふ専研 [岐阜商工会議所専門家研究会]

当研究会は岐阜商工会議所に登録している各専門家25名が研鑽を重ね、企業や事業支援の実践に役立てることを目的としています。
主な活動は、企業経営に関する法律、税務、財務、販売、事業承継、ITなどの事例を通して各専門分野からの意見や提言を行い、企業最適化を図ることです。

【戦国の歴史に学ぶ】

「本能寺の変」から 経営者は何を学ぶか 〈学べるか〉

中小企業診断士・特定社会保険労務士

大塚教晃

1

本能寺の変

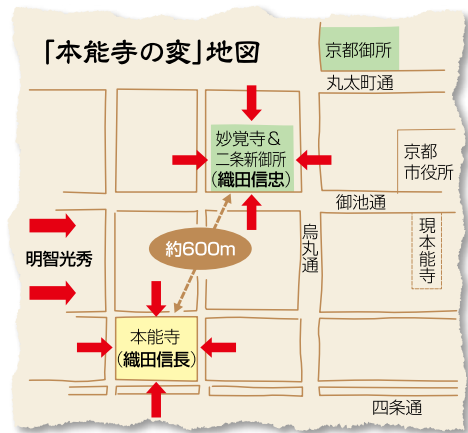
1582年6月21日未明、明智光秀の軍勢1万3千が織田信長・信忠父子を急襲した事件「本能寺の変」により織田家は実質崩壊しました。今にも天下統一する勢いを持っていた織田家がいとも簡単にナゼ崩壊したのか？ここから現代の企業経営者

が何を学べるのかを考えてみましょう。

2

観光しながら歴史を学ぶ

尾張の守護代にすぎなかった織田信長は1560年に桶狭間で今川義元を破り、一躍、歴史の舞台に躍り出て以来、上洛、室町幕府第15代將軍足利義昭を備後・鞆に追いやり、石山本願寺と和解し、武田勝頼を滅ぼし、今にも「天下布武」を達成できる勢いを持っていました。次の攻略目標である中国地方の毛利氏を攻めさせていた羽柴秀吉を応援する為に織田信長が出陣する途中、京都の本能寺に宿泊していた時、京都西方・亀岡城から進発した明智光秀が謀反を起こしたので



つまり、両者の間には本当のコミュニケーションが出来ていなかったのです。

4

経営者が学べること

現代の企業経営者は、これから何を学べるのでしょうか。

(1) 危機管理の意識

事業等がどんな状況にあっても危機管理(リスクマネジメント)を常に心に留めておくことです。徳川家康は伏見城で豊臣秀吉が死んだとの報を聞いた直後に嫡男秀忠を江戸に帰したり、関ヶ原の戦いの前、秀忠を自分とは別ルートで西上させたのも、二人が同時に襲われる万一の危険を避けたのだと言われています。生き残りを掛けて父子が敵味方に分かれた真田一族の「犬伏の別れ」もある意味で危機管理の一つと言えるでしょう。

(2) 事業承継期の二重構造の排除

経営者が後継者に社長職を譲り、自分は会長におさまっている時期も信長・信忠と同様の二重構造と考えるべきです。いつまでも権限を握っていると、新社長の経営判断が鈍く、曖昧になりがちです。先代としては心配かもしれませんが、これに耐

この時代の本能寺は現在の京都市役所南の場所とは異なり、烏丸四条交差点の西北にある元本能寺町付近の東西100m余、南北100m余の広さがあり、ここに信長は少数の近習たちと宿泊していました。妙覚寺に滞在していた嫡男信忠が僅かな馬回り衆と立て籠もって戦った東隣の二条新御所も現在と異なり烏丸御池交差点の少し北西の上・下妙覚寺町付近で、両寺間の距離は約600mと歩いても10分の非常に近い所だったと言われています(地図参照)。現在、両所とも町屋が密集した街並で町名板と小さな石碑が立っている以外、往時を偲ばせるものは殆んど見あたりません。この後、山崎の戦いを経て秀吉が全国を統一し、関ヶ原の戦いで徳川家康が天下を奪い、1615年の大阪夏の陣で豊臣家が滅亡と時代は急展開しました。

3

信長の「持った」課題

明智光秀が謀反を起こした動機には数多くの説があります。野望説、怨念説、前途不安説、朝廷誘導説、四国政策説等々ですが、最近では光秀の子孫が「家

えて任せることが大切でしょう。

また、新社長が周囲に自分の力量を誇示したい故に張り切り過ぎてトラブルを起こしている例が国内外で散見されることも認識する必要があります。

(3) 社員の目線でも見ることができる柔軟性

社員とのコミュニケーションが本当に取れているかを謙虚に反省することが重要です。その為には社員の人格を尊重すると共に物事を社員の目線・視点でも見ることが出来る柔軟性を持つことです。トップダウンのスピード経営も良いことです。が、社員の意見にも耳を傾けてください。

歴史には学ぶことが沢山あります!!

*史実は諸説があります。本文とは異なる説もありますのでご了承ください。

中小企業診断士
特定社会保険労務士

大塚教晃 氏
おお つか けい 晃

●プロフィール
(株)東海アソシア 代表取締役
大塚社会保険労務士事務所 所長
技術・営業・アフターサービス・海外駐在の幅広い経験と新しい経営および労務管理の理論を武器に活動。